

ロシアレポート #23

下院選挙分析：異常値が目立つ北カフカス連邦管区の選挙結果

2012/01/13

1. 主要経済指標の推移：ロシア経済は堅調で 2011 年通年では+4.2~4.5%の成長か。但し家計部門に若干の陰り。

図表 1 ロシアの主要経済指標の推移¹

分類	経済指標名称	11Q1	11Q2	11Q3	9月	10月	11月
景気	実質GDP成長率(前年同期比、%)*	4.1	3.4	4.8	—	—	5.4
企業	主要経済活動生産指数(前年同期比、%)	4.3	3.5	6.5	7.2	7.5	5.7
	実質鉱工業生産指数(前年同期比、%)	5.9	4.8	5.1	3.9	3.6	3.9
	実質固定投資(前年同期比、%)	-0.8	5.0	7.7	8.5	8.6	7.7
雇用	失業率(原数値、%)	7.5	6.6	6.2	6.0	6.4	6.3
家計	実質可処分所得(前年同期比、%)	0.0	-1.0	1.6	2.9	0.2	0.2
	財・サービス支出(前年同期比、%)**	7.9	6.8	6.9	8.2	7.8	—
	実質小売売上高(前年同期比、%)	5.2	6.1	7.9	9.4	9.0	8.6
物価	消費者物価指数(前年同期比、%)	9.5	9.5	8.1	7.2	7.2	6.8
	通貨供給量(M2期末値、前年同期比、%)	26.5	22.7	21.5	21.5	19.8	20.2
対外収支	輸出(国際収支ベース、前年同期比、%***)	22.8	36.9	34.0	28.2	32.3	27.9
	輸入(国際収支ベース、前年同期比、%***)	42.4	42.7	24.1	16.2	17.8	17.4
	貿易収支(国際収支ベース、億ドル)***	482	508	459	167	169	164
	金外貨準備高(期末値、億ドル)	5,025	5,245	5,168	5,168	5,256	5,109
市場	為替レート(ルーブル/US\$1、期末値)	28.43	28.08	31.88	31.88	29.90	31.32
	株価指数(RTS指数、期末値)	2044.2	1906.7	1341.1	1341.1	1563.3	1540.8
	ウラル原油価格(US\$/b)	102.3	114.6	112.5	112.6	108.7	110.9

*11月は経済発展省推計、その他は国家統計局公表値(国家統計局公表値が公式数値) **四半期は年初からの累計

***11月は経済発展省推計、その他は中央銀行

<資料>国家統計局、経済発展省、中央銀行、RTS

(1) 景気：ロシア経済は依然堅調。2011 年通年では+4.2~4.5%の成長か。

経済発展省が推計した **2011 年 11 月の実質 GDP 成長率は前年比+5.4%**となりました(因みに 2010 年通年の実質 GDP 成長率は前年比+4.0%)。同じく経済発展省が推計した **2011 年 1-11 月累計の実質 GDP 成長率は前年比+4.4%**となりました。経済発展省は **2011 年通年の実質 GDP 成長率を+4.2~4.5%**と予測しています。

企業部門では、実質鉱工業生産指数が 11 月は前年比+3.9%と 10 月(同+3.6%)並みの伸びを維持しました。11 月の実質固定投資は前年比+7.7%と高い伸びを維持しました。

家計部門では実質可処分所得が 11 月は前年比+0.2%と 6 ヶ月連続の前年超えとなりましたが**減速は明らか**です。11 月の**実質小売売上高は前年比+8.6%**と 10 月(同+9.0%)並みの**伸びを維持**しました。

2011 年第 3 四半期の実質 GDP(季節調整値)の水準は既往ピーク(2008 年第 2 四半期)を 1.4%下回っており、経済活動が既往ピークの水準に戻るのには 2011 年末頃と考えられます。

尚、今後は下院選で大幅に議席を減らした与党・統一ロシアによる人気取りのための財政支出拡大が予想されますが、短期的な景気維持の観点から見れば案外良いタイミングかも知れません。

¹ 12 月の消費者物価指数は前年同月比+6.1%と大幅に減速しました。

(2) 企業：11月は生産・投資とも堅調。農業生産は前年の反動増+豊作で前年比4割増。

11月の実質鉱工業生産指数は前年比+3.9%と10月(同+3.6%)並みの伸びを維持しました。内訳を見ると、鉱業は前年比+1.3%(10月同▲0.3%)、製造業は同+4.9%(10月同+5.7%)、インフラは同+3.2%(10月同▲2.2%)となりました。尚、新車購入支援終了後も乗用車の国内生産は堅調が続いていましたが、11月の生産台数は4ヶ月ぶりの前月割れとなりました²。

11月の実質固定投資は前年比+7.7%と8ヶ月連続の前年超えとなりました。但し実質固定投資に影響を与える企業収益は、2011年1-10月は前年比+22.6%と、今年のピークであった1-5月の同+45.0%から悪化しています。またロシア中銀によれば、非金融企業向けのルーブル建て融資(1年未満)の伸びは8月前月比+6.6%、9月同+14.4%のうち、10月は同+3.8%まで減速したようです。

図表 2 ロシアの実質農業総生産(前年同期比、%)

08	09	10	11Q1	11Q2	11Q3	11年9月	11年10月	11年11月
10.8	1.4	-11.3	0.7	0.6	16.5	29.5	51.8	41.7

<資料> 国家統計局

11月の実質農業総生産は前年比+41.7%と12ヶ月連続の前年超えとなりました。昨年11月が前年比▲7.0%とそれほど落ち込まなかったことを考えると、11月の伸びは単なる反動増ではなく豊作によるものと考えられます。尚、1-11月累計では前年比+21.7%増加しました。12/9に公表された米農務省の需給予測によれば、今年度のロシアの小麦生産は5,600万トンと予測されており、これは2001-2010年平均4,860万トンを上回る数字です(干ばつに見舞われた2010年度実績は4,151万トン)。農業は年後半の実質GDP成長率(前年比)を押し上げる要因と考えられます。

(3) 雇用・家計：雇用は堅調だが、所得・消費に若干の陰り。消費の持続性に注意。

11月の失業率(原数値)は6.3%と10月から0.1%改善しました。筆者季節調整値でも11月は6.5%と10月(同6.7%)から0.2%改善しました(図表5参照)。

11月の実質可処分所得は前年比+0.2%となり、6ヶ月連続の前年超えとなりましたが、11年Q3(同+1.6%)と比較すると減速しています。また11月の実質小売売上高は前年比+8.6%と高い伸びを維持しましたが、10月(同+9.0%)と比較するとやや減速しました。11月の乗用車販売は前年比+26%となり、10月の前年比+27%並みの伸びを維持しています³。昨今の堅調な消費は、主に消費性向(可処分所得に対する支出の割合)の上昇と消費者ローンの拡大に支えられている模様です。加えて堅調な雇用情勢や食料品価格低下による実質所得の増加や、ルーブル安による輸入品価格上昇を見越した買い急ぎもあると考えられます。

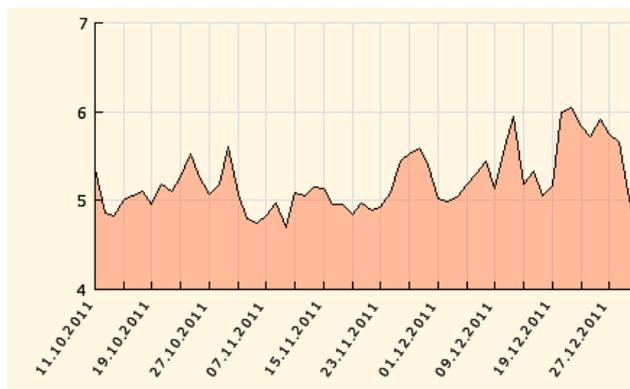
² 筆者季節調整値によれば、11月の乗用車生産台数は15.1万台と7月以来4ヶ月ぶりの前月割れとなりました(6月14.1万台、7月13.7万台、8月14.7万台、9月15.2万台、10月15.3万台)。

³ 発行済みで未使用の新車購入支援証明書がまだ市中に残っており、そのため新車購入支援終了の影響が緩やかであると考えられます。

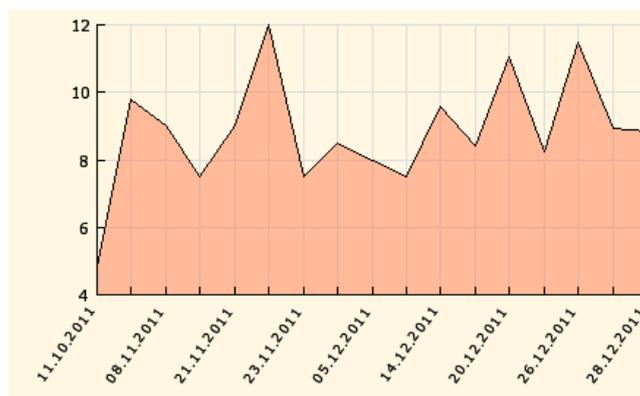
世界経済の減速を受けて、個人消費がどこまで堅調を維持するか、要注目です。

(4) 物価と金融政策：主要政策金利を 0.25%引き下げ。インフレよりも景気に配慮。

図表 3 ロシアの短期金利の推移 (MIACR⁴1 日物、%、資料は CBONDS 社サイト⁵)



図表 4 ロシアの長期金利の推移 (MIACR181 日～1 年物、%、資料は CBONDS 社サイト)



12月23日の会合で中央銀行は、主要政策金利であるリファイナンス金利⁶を12/26から0.25%引き下げ8.00%とすることを決定しました。同時にレポ金利を0.25%引き下げ6.25%とし、預金金利を0.25%引き上げ4.00%としました。中銀は、今回の措置が金利安定性と金融政策効果双方の向上に資すると述べました。

また公共料金値上げの2012年央までの先送りや9月以降の金融市場の流動性ひっ迫は、2012年のインフレ抑制に寄与するとの見通しを示し、「現在の金利水準はインフレと経済成長のバランスを維持できる」としました⁷。

⁴ Moscow Interbank Actual Rate

⁵ http://www.cbonds.info/rus/index/index_detail/group_id/19

⁶ リファイナンス金利の重要性は低下しつつありますが、中銀声明文では依然冒頭でリファイナンス金利に言及しているため、引き続きリファイナンス金利を主要政策金利とします。
⁷ 9月14日の会合で、従来の「今後数ヶ月 (ближайшие месяцы)」という文言を、よりあいまいな「今後しばらく (ближайшее время)」に変更し、リファイナンス金利据え置き期間が従来予想よりも長期化することを示唆しましたが、11月にはその文言自体を削除し、政策の自由度を確保しました。その上で今回12月に利下げに踏み切りました。

最後に中銀は金融市場・海外経済のモニタリングと、金利上昇のリスク評価を続けると述べています。

尚、足元の短期金利（図表 3）は、年末要因の剥落を受けて、急低下しています。

筆者の印象としては、先月以上にインフレリスクよりも景気悪化リスク（特に海外経済）を重視する印象が感じられ、もし次の一手があるとすれば金融緩和の方向と思われる。

(5) 対外収支・市場：底堅い輸出入

11月（数字は経済発展省推計）は輸出・輸入とも10月並みの伸び幅となりました。貿易収支もほぼ10月並みとなりました。エネルギー省によれば、11月の石油輸油量は前年比+1.4%、天然ガスは同+4.0%、石炭は同▲13.1%、となりました。1-11月累計では、石油輸油量は前年比▲1.8%、天然ガスは同+9.2%、石炭は同▲5.2%、となりました。

世界景気減速・欧州財政問題顕在化の影響を受けている金融市場ですが、ルーブルの対ドルレートは1月13日現在31.6661ルーブル/US\$1と直近最安値（1/9の32.1825ルーブル/US\$1）からはやや持ち直していますが、11月以降のルーブル安基調は未だ続いているようです。株価は12月に入ってから持ち直していたものの、下院選後の混乱を嫌気して12月12日には1,363.67ptまで低下、その後じりじりと戻して1月12日現在1,458.24ptとなっています。

11月の外貨準備高は147億ドル減少しました。ユーロ・ポンド・円・カナダドルの下落による減少が116億ドル、ドル売りによる減少が16億ドル、金価格低下による減少が約4億ドル、その他要因による減少が11億ドルです。

(6) 前期・前月比：経済は依然堅調だが、家計部門に若干の陰り

図表 5 主要経済指標：季節調整済前期・前月比（%）⁸

	10Q1	10Q2	10Q3	10Q4	11Q1	11Q2	11Q3	11Q4**	11/9	11/10	11/11
実質GDP	1.2	1.0	0.0	2.2	1.0	0.5	1.0	1.5	0.4	0.9	0.3
実質鉱工業生産指数	2.1	2.2	-0.3	1.9	1.5	1.3	0.7	0.9	-0.3	0.8	0.3
実質固定投資	-2.5	2.3	1.2	7.7	-15.2	10.3	1.7	6.5	1.8	5.1	-0.1
実質可処分所得	1.5	-3.2	-2.2	0.0	-0.8	-2.1	1.7	-0.2	0.8	-0.8	0.1
実質小売売上高	2.6	2.4	1.5	0.3	0.9	1.5	2.3	1.1	0.6	0.2	0.1
失業率*	8.0	7.6	7.3	7.0	6.7	6.7	6.7	6.6	6.6	6.7	6.5
輸出*	10.5	-3.7	-2.1	13.1	14.0	8.4	-3.3	4.2	0.4	4.6	-0.7
輸入*	3.7	6.2	9.8	5.4	15.3	6.1	-3.2	0.1	-6.7	3.7	1.6
貿易収支(億ドル)*	455	383	305	394	441	495	478	535	173	183	176

<資料> 経済発展省

*筆者季節調整値。輸出・輸入・貿易収支につき11月は経済発展省推計、その他は中央銀行。

**11Q4は11/12を全て11/11比横ばいと仮定した場合の推計値

図表 1 が「前年比」を中心とした経済指標であるのに対し、図表 5 は経済指標の「前期・前月比」を掲載したものです。一般に前年比よりも前期・前月比のほうが景気の変化を素早く反映しやすいとされており、景気動向を知る上で前年比と前期・前月比を合わせて観察することは有効です。

⁸ 影をつけた部分は経済発展省が過去に公表した数値で、同省内部でその後改訂されている可能性があります。

11月は実質GDP成長率が前月比+0.3%と減速しましたが、10月の高成長を考えれば悪くない数字です。プラスに寄与したのは産業別では鉱工業生産と商業です。経済発展省試算では11月の農業総生産は前月比▲4.1%（9月同+11.7%、10月同+23.1%）と既に減少に転じており、前月比では農業の経済押し上げ効果は既にピークを過ぎたようです。

11月の実質鉱工業生産指数は前月比+0.3%と減速したものの、10月の高成長を考えればこれも悪くない数字です。国家統計局が別途算出した11月の実質鉱工業生産指数（季節調整済み）も前月比+0.1%とプラスを維持しています。経済発展省が公表した内訳は、鉱業が前月比+0.9%（6月同▲0.1%、7月同▲0.1%、8月同横ばい、9月同▲0.3%、10月同▲0.2%）、製造業同▲0.1%（9月同▲0.2%、10月同+1.5%）、インフラ同+2.0%（9月同▲0.7%、10月同▲1.5%）となっており、基調としては輸出向け資源生産が減速している模様です⁹。世界経済の減速を考慮すれば、ロシアの生産についても楽観が許されない時期と思われます。

実質固定投資は11月は前月比▲0.1%と10月の高成長に伴う反動減が見られました。

11月の実質可処分所得は前月比+0.1%の微増となりました。10月の大幅減少に対する反動増としてはやや力不足と思われます。実質小売売上高も前月比+0.1%とプラスは維持したものの、3月以降では最も低い伸びとなり、減速が明らかです。失業率（筆者季節調整値）は11月は6.5%と前月比0.2%改善しました。

11月の輸出は7月以来4ヶ月ぶりの前月割れとなりました。11月の輸入は2ヶ月連続の前月超えとなりました。貿易収支は10月よりも縮小し、176億ドルとなりました。

四半期で見たより大きなトレンドを知るため、図表5に11Q4の推計値を掲載しました（12月の指標を全て11月比横ばいと仮定して計算）。四半期ベースで見ると、11Q4の数字が堅調を維持しているのは、実質GDP・実質鉱工業生産指数・実質固定投資・失業率・輸出・輸入（但し輸入は+0.1%と弱く、家計消費の減速と整合的）・貿易収支で、減速が明らかなのは、実質可処分所得・小売売上高といった家計関連指標となりました。家計消費は豊作・高油価とともに足元のロシア経済の成長を支えてきた柱であり、引き続きその動向には注意が必要です。

2. 下院選挙分析：異常値が目立つ北カフカス連邦管区の選挙結果

筆者は常々客観的に物事を考えたいと思っており、そういう人間にとって政治分析はできるだけ避けたい仕事のひとつです。しかし政治の世界でも、例えば有権者の投票行動などは客観的・定量的な分析が可能です。そこで昨年12/4に実施されたロシア下院議員選挙の投票結果を定量分析してみました。このような分析を行うにあたって、①なんらかの不正操作が懸念されるデータを分析して意味があるのか、②ロシア政治に関する十分な知識が無い人間がデータ分析しても意味がないのでは、といった批判が予想されます。しかし①に対しては、「それでは一体何を根拠にして客観的分析を行えばよいのか」と答えるでしょう。そもそも統計というものに誤差はつきもので、それを理由に客観的分析を躊躇して

⁹ 図表1・図表5の輸出統計は金額ベースであるため、鉱業生産に見られる数量減少が反映されていないようです。

いては話が前に進みません。また客観的分析を行うことで、意図的な操作が透けて見える場合もあります。②の批判は正にその通りです。現象（この場合はロシア政治）に関する固有知識を伴わないテクニカルな分析ほど空虚なものはありません。しかし分析結果を公表し、有識者の議論の叩き台にできれば分析の意味はあろうかと思えます。

今回分析に用いた手法は、①正規分布（いわゆる釣鐘型の分布）を前提とした投票行動分布、②相関性分析、③主成分分析、の3つです。分析対象とした指標は以下の通りです。

① 連邦構成主体別の得票率（%）¹⁰

公正ロシア・自由民主党・ロシアの愛国者・共産党・ヤーブラカ・統一ロシア・右派活動の7政党につき「得票数÷（有効票＋無効票）」にて計算した得票率

② 投票率（%）

（有効票＋無効票）÷有権者名簿登録数

③ 無効投票（%）

無効票÷（有効票＋無効票）

④ 年金生活者（%）

人口に対する年金生活者数（ロシア国家統計局データベース、09/1/1 現在）の割合

⑤ 名目 GDP（ルーブル）

1人あたり名目 GDP（ロシア国家統計局、09年現在）

⑥ 鉱業（%）

名目 GDP に占める鉱業生産の割合（ロシア国家統計局、09年現在）

¹⁰ 投票結果はロシア連邦中央選挙委員会のサイト（下記 URL、ロシア語）より入手。

http://www.vybory.izbirkom.ru/region/region/izbirkom?action=show&root=1&tvd=10010028713304&vrn=100100028713299®ion=0&global=true&sub_region=0&prver=0&pronetvd=null&vivid=100100028713304&type=233

図表 6 連邦構成主体別・各種指標の偏差値¹¹（絶対値 1.5 以上は青字、2.0 以上は赤字）

偏差値	公正ロシア	自由民主党	ロシアの愛国者	共産党	ヤーブラカ	統一ロシア	右派活動	投票率	無効投票	年金生活者	名目GDP	鉱業
アディグ共和国	-0.78	-0.84	-0.15	-0.19	-0.59	0.70	-0.31	0.33	-0.29	-0.31	-0.61	-0.51
アルタイ共和国	-0.48	-0.29	-0.41	0.35	-0.72	0.25	-0.22	0.16	-0.45	-0.89	-0.61	-0.46
バシコルトスタン共和国	-1.26	-1.32	-1.00	-0.60	-0.87	1.26	-0.62	1.36	-0.97	-0.65	-0.20	0.09
ブリヤート共和国	-0.11	-0.51	-0.45	0.80	-0.53	-0.01	-0.51	-0.36	-0.16	-0.87	-0.38	0.02
ダゲスタン共和国	-2.09	-2.30	-1.91	-1.85	-1.53	2.50	-1.78	2.28	-2.47	-2.45	-0.59	-0.56
イングーシ共和国	-1.76	-2.23	-1.64	-2.66	-1.13	2.47	3.27	1.92	-1.26	-4.14	-0.98	-0.39
カバルディノ・バルカル共和国	-2.09	-2.29	-2.14	-0.28	-1.51	1.93	-1.83	2.84	-2.72	-2.18	-0.74	-0.59
カルムイク共和国	-0.98	-1.55	-0.79	-0.16	-0.78	1.00	0.30	0.13	0.11	-1.12	-0.67	-0.39
カラチャイ・チェルケス共和国	-2.05	-2.26	-1.91	-1.71	-1.48	2.40	-1.60	2.44	-2.38	-0.37	-0.63	-0.47
カレリア共和国	1.16	1.09	-0.15	-0.02	1.83	-1.00	1.11	-0.87	0.69	1.49	-0.22	-0.19
コミ共和国	-0.30	-0.05	-0.11	-0.96	-0.73	0.57	0.06	0.85	-0.41	0.58	0.81	1.91
マリ・エル共和国	-0.44	-0.09	-0.30	0.22	-0.46	0.18	-0.04	0.75	-0.41	-0.31	-0.58	-0.59
モルドヴィア共和国	-1.92	-2.02	-1.90	-2.40	-1.39	2.51	-1.64	2.51	-1.93	0.61	-0.50	-0.60
サハ共和国	1.35	-0.70	-0.46	-0.48	-0.65	0.00	-0.28	-0.12	-0.59	-0.88	1.01	1.80
北オセチア・アラニア共和国	-1.16	-1.88	-1.42	0.38	-1.41	1.11	-1.02	1.87	-0.55	0.41	-0.62	-0.57
タタースタン共和国	-1.28	-1.65	-1.24	-1.42	-0.97	1.69	-0.68	1.38	-1.15	-0.30	0.29	1.35
トゥヴァ共和国	-1.05	-1.91	-1.51	-2.50	-1.27	2.13	-1.32	1.90	-1.06	-0.85	-0.67	-0.22
ウドムルト共和国	-0.34	0.84	3.43	0.03	-0.01	-0.24	0.36	-0.39	-0.01	-0.47	-0.25	1.48
ハカシア共和国	0.05	0.73	1.39	0.69	-0.10	-0.53	0.24	-0.41	0.13	-0.53	-0.22	0.24
チェチェン共和国	-2.10	-2.30	-2.04	-3.12	-1.53	2.97	-1.84	2.93	-2.68	-1.49	-0.89	-0.30
チュヴァシ共和国	0.87	-0.29	0.73	0.25	-0.68	-0.34	-0.73	0.01	2.51	-0.51	-0.51	-0.59
アルタイ地方	0.44	0.83	-0.54	0.86	-0.24	-0.71	-0.66	-0.70	0.65	-0.02	-0.53	-0.53
クラスノダール地方	-0.40	-0.33	-0.10	-0.29	-0.45	0.41	-0.36	0.85	0.09	-0.03	-0.15	-0.55
クラスノヤールスク地方	0.40	0.91	-0.01	0.68	0.20	-0.73	1.12	-0.92	0.37	-0.35	0.44	0.11
沿海地方	0.77	1.24	-0.30	0.64	0.14	-0.95	-0.25	-1.00	1.49	-0.50	-0.03	-0.50
スタヴロポリ地方	-0.24	0.59	-0.14	-0.16	-0.40	0.00	-0.50	-0.83	0.59	-0.60	-0.56	-0.53
ハバロフスク地方	0.12	1.45	0.81	0.18	0.44	-0.65	0.51	-0.65	0.33	-0.30	0.04	-0.19
アムール州	-0.49	1.67	1.64	-0.03	-0.53	-0.33	0.30	-0.58	0.39	-0.52	-0.09	0.29
アルハンゲリク州	1.40	1.13	0.53	0.14	0.88	-1.02	0.64	-0.89	-0.70	1.54	0.43	2.08
アストラン州	0.20	-0.73	-0.64	-0.99	-1.00	0.65	-0.82	-0.44	0.17	-1.15	-0.37	-0.36
ベルゴド州	-0.28	-0.48	0.07	0.49	-0.42	0.12	-0.44	1.07	0.17	0.78	0.06	0.12
ブリヤンスク州	-0.34	-0.29	-0.12	0.64	-0.48	0.06	-0.45	-0.13	-0.27	1.11	-0.59	-0.59
ウラジーミル州	1.31	0.14	0.26	0.19	0.37	-0.64	-0.01	-0.99	-0.01	1.01	-0.37	-0.56
ボルゴグラド州	1.37	0.21	0.17	0.55	0.32	-0.81	0.07	-0.74	-0.20	-0.02	-0.28	-0.17
ヴォログダ州	2.20	0.62	0.61	-0.42	0.33	-0.93	0.58	-0.41	0.41	0.23	-0.09	-0.59
ボロネジ州	0.18	-0.63	-0.34	0.40	-0.36	0.05	-0.46	0.21	-0.49	1.27	-0.36	-0.56
イヴァノヴォ州	0.36	0.49	0.46	0.51	0.34	-0.53	0.80	-0.65	-0.06	0.77	-0.69	-0.58
イルクーツク州	0.00	0.98	0.43	1.36	0.32	-0.84	-0.02	-1.12	-0.26	0.10	-0.32	-0.16
カニンград州	-0.01	0.36	2.74	0.99	1.44	-0.71	0.39	-0.54	0.14	-0.88	-0.05	0.02
カルーガ州	0.36	0.41	0.85	0.41	0.69	-0.52	0.25	-0.31	0.03	0.43	-0.21	-0.55
ケメロボ州	-0.86	0.03	-0.38	-1.44	-0.37	0.89	-0.57	0.60	0.01	0.33	-0.05	1.55
キーロフ州	1.03	0.86	0.41	0.53	-0.07	-0.84	-0.02	-0.58	-0.12	0.54	-0.55	-0.57
コストロマ州	0.84	0.72	0.11	1.53	0.10	-1.09	-0.14	-0.33	-0.56	0.60	-0.48	-0.59
クルガン州	0.18	0.89	-0.32	0.04	-0.47	-0.28	-0.39	-0.39	-0.41	0.48	-0.48	-0.55
クルスク州	0.18	0.25	0.87	0.21	-0.31	-0.20	-0.21	-0.53	-0.13	1.39	-0.32	-0.04
レニングラド州	1.91	0.53	0.45	-0.32	1.18	-0.95	0.29	-0.78	1.61	-0.01	0.46	-0.36
リベツク州	0.54	0.42	-0.08	0.57	-0.19	-0.53	-0.18	-0.36	0.69	1.18	0.04	-0.54
マガン州	-0.27	0.98	1.34	0.54	0.34	-0.48	0.84	-0.70	-0.36	0.21	0.69	0.96
モスクワ州	0.41	0.41	0.74	0.99	1.77	-0.96	1.51	-0.83	2.62	-0.20	0.24	-0.57
ムルマンスク州	1.01	1.12	0.40	0.38	1.05	-1.01	0.22	-0.76	0.56	0.42	0.33	0.35
ニジネゴロド州	-0.43	-0.29	-0.31	1.52	-0.01	-0.27	-0.20	-0.21	-0.59	0.65	-0.16	-0.59
ノボゴロド州	2.35	-0.13	-0.17	0.02	0.15	-0.86	-0.27	-0.39	0.56	0.99	-0.04	-0.59
ノボシビルスク州	-0.10	0.67	0.14	1.76	0.79	-0.90	0.28	-0.37	-0.07	-0.21	-0.19	-0.29
オムスク州	0.01	0.38	0.10	1.00	0.36	-0.56	0.60	-0.46	0.70	-0.34	-0.14	-0.59
オレンブルグ州	0.55	0.90	0.12	1.10	-0.27	-0.84	-0.42	-0.80	-0.31	-0.21	0.04	2.35
オルロフ州	-0.34	0.01	-0.23	2.04	-0.43	-0.60	0.75	0.24	0.53	1.20	-0.51	-0.59
ペンザ州	-0.75	-0.39	-0.64	0.07	-0.40	0.42	-0.59	0.26	0.60	0.80	-0.51	-0.56
ブスコフ州	0.49	0.33	-0.21	0.93	1.22	-0.74	-0.40	-0.67	-0.21	0.76	-0.52	-0.58
ロストフ州	-0.01	-0.38	-0.39	0.24	0.00	0.06	-0.23	-0.17	-0.38	0.36	-0.37	-0.52
リャザン州	0.28	0.55	0.39	0.68	0.12	-0.55	0.35	-0.69	0.04	1.67	-0.37	-0.57
サマラ州	0.14	0.67	0.37	0.61	0.61	-0.58	-0.29	-0.67	0.80	0.21	-0.04	0.41
サラトフ州	-0.52	-0.94	-0.91	-0.90	-0.63	0.93	-0.91	0.42	-0.27	-0.07	-0.40	-0.36
サハリ州	-0.25	0.72	0.43	0.65	0.31	-0.43	0.42	-0.96	0.13	0.81	3.68	4.13
スベルドロフスク州	1.81	0.73	-0.18	-0.41	0.77	-0.97	5.25	-0.80	1.74	0.04	-0.01	-0.37
スモレンスク州	0.84	0.49	0.34	0.78	0.01	-0.76	-0.14	-0.92	0.16	0.82	-0.39	-0.56
タンボフ州	-1.16	-0.96	-1.06	-0.47	-0.77	1.03	-0.99	0.50	-0.03	1.34	-0.43	-0.60
トヴェリ州	1.03	-0.09	0.51	0.62	0.50	-0.63	-0.18	-0.63	-0.38	0.95	-0.28	-0.58
トムスク州	0.01	1.07	0.74	0.49	0.98	-0.69	1.53	-0.86	0.56	-0.65	0.28	1.30
トゥーラ州	-0.78	-0.56	-0.40	-0.70	0.35	0.72	-0.49	0.86	-0.61	2.28	-0.33	-0.57
チュメニ州	-0.95	0.36	-0.39	-1.24	-0.46	-0.77	0.07	1.12	-0.65	-1.86	4.22	3.61
ウリヤノフスク州	0.36	0.08	-0.01	0.60	-0.31	-0.33	-0.33	-0.09	-0.25	0.44	-0.46	-0.43
チェリヤビンスク州	0.53	-0.08	-0.06	-0.77	0.33	0.07	-0.02	-0.15	0.27	-0.14	-0.18	-0.51
ヤロスラフ州	1.48	0.63	1.90	0.74	1.05	-1.19	0.38	-0.44	0.01	0.75	-0.17	-0.59
モスクワ市	-0.19	-0.52	0.76	0.00	3.10	-0.15	0.86	-0.02	0.35	-1.03	3.14	-0.60
サンクトペテルブルク市	1.65	-0.36	0.56	-0.66	4.76	-0.81	1.31	-0.54	0.03	0.18	0.84	-0.60
ユダヤ自治州	-0.45	0.67	-0.13	0.07	-0.51	-0.06	-0.28	-0.74	1.73	-0.92	-0.34	-0.57
チュコト自治管区	-1.26	-0.18	-0.27	-2.05	-0.62	1.25	0.33	1.36	2.78	0.22	4.71	2.83
ベルニ地方	0.49	1.08	0.13	0.26	0.81	-0.76	0.83	-1.04	1.19	-0.07	0.08	0.51
カムチャッカ地方	-0.52	1.22	2.74	-0.37	0.69	-0.23	0.06	-0.62	0.94	-0.54	0.57	-0.26
ザバイカル地方	0.12	1.33	0.19	-0.12	-0.63	-0.35	-0.26	-0.61	-0.04	-1.05	-0.36	0.01

11 平均をゼロとし、そこから上下に乖離するほど絶対値が大きくなります。

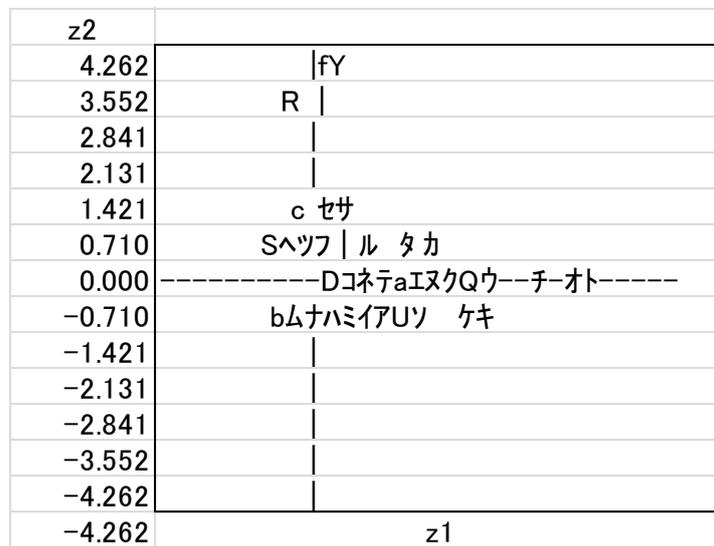
まず図表 6 を見てみましょう。すぐに分かることは、ダゲスタン共和国、イングーシ共和国、カバルディノ・バルカル共和国、カラチャイ・チェルケス共和国、チェチェン共和国（以上北カフカス連邦管区に所属）、モルドヴィア共和国における投票率の高さと、与党・統一ロシアの得票率の高さです（チェチェン共和国では投票率 99.5%、統一ロシアの得票率が 99.5%）。但しイングーシ共和国では、右派活動の得票率も相対的に高くなっています。また与党・統一ロシアが多くの連邦構成主体で「広く薄く」票を失いながらも、先述の各共和国での高い得票率でそれを埋め合わせている様子もうかがえます。

図表 7 各種指標間の相関係数¹²（絶対値が 0.5 以上は青字、0.707 $\approx\sqrt{0.5}$ 以上は赤字）

相関係数	公正ロシア	自由民主党	ロシアの愛国者	共産党	ヤーブラカ	統一ロシア	右派活動	投票率	無効投票	年金生活者	名目GDP	鉱業
公正ロシア	1.00											
ロシア自由民主党	0.64	1.00										
ロシアの愛国者	0.49	0.74	1.00									
ロシア連邦共産党	0.49	0.61	0.50	1.00								
ヤーブラカ	0.60	0.51	0.56	0.38	1.00							
統一ロシア	-0.85	-0.87	-0.70	-0.81	-0.66	1.00						
右派活動	0.42	0.43	0.38	0.19	0.52	-0.46	1.00					
投票率	-0.77	-0.86	-0.68	-0.70	-0.60	0.92	-0.45	1.00				
無効投票	0.52	0.61	0.49	0.37	0.43	-0.62	0.47	-0.63	1.00			
年金生活者	0.41	0.34	0.22	0.41	0.27	-0.45	-0.03	-0.36	0.22	1.00		
名目GDP	0.02	0.19	0.18	-0.11	0.28	-0.07	0.20	-0.06	0.28	-0.03	1.00	
鉱業	-0.08	0.19	0.14	-0.14	-0.04	0.02	0.09	-0.02	0.04	-0.07	0.72	1.00

次に今回分析対象とした指標間の相関係数を調べてみました。但し、これだけでは分析は困難なので、これらをベースにした主成分分析を行い、結果を図表 8・9 のグラフに示しました。

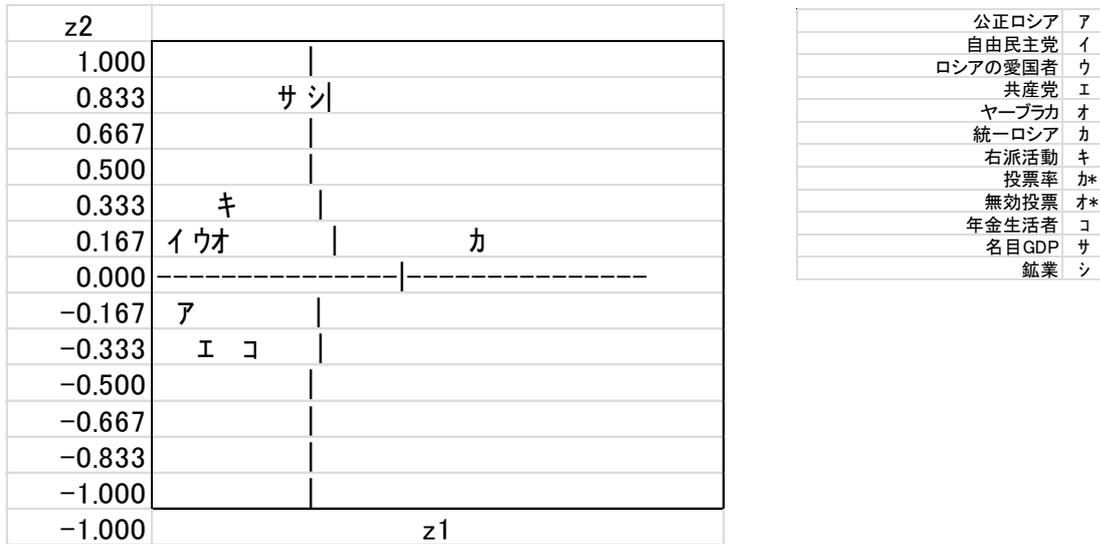
図表 8 主成分得点のグラフ



アディグ共和国	ア	モルドヴィア共和国	ケ*	沿海地方	ハ*	イヴァンヴォ州	ム*	モスクワ州	D	サマール州	ネ*	ヤロスラフ州	b
アルタイ共和国	イ	サハ共和国	セ	スタプロボリ地方	ハ	イルクーツク州	ム*	ムルマンスク州	コ*	サラトフ州	Q	モスクワ市	c
バシコルトスタン共和国	ウ	北オセチア・アラニア共和国	ソ	ハバロフスク地方	ネ*	カリニングラード州	コ*	ニジネゴロド州	ハ*	サハリ州	R	サンクトペテルブルク市	ハ*
ブリヤート共和国	エ	タタルスタン共和国	タ	アムール州	フ	カルーガ州	ナ*	ノボゴロド州	ム*	スベルドロフスク州	S	ユダヤ自治州	ア*
ダゲスタン共和国	オ	トゥバ共和国	チ	アルハンゲリスク州	ヘ	ケメロボ州	ル	ノボシビルスク州	ム*	スモレンスク州	ム*	チュコト自治管区	f
イングーシ共和国	カ	ウドムルト共和国	ツ	アストラハン州	ケ*	キーロフ州	ム*	オムスク州	テ*	タンボフ州	U	ベルミ地方	ハ*
カバルディノ・バルカル共和国	キ	ハカシア共和国	テ	ベルゴロド州	エ*	コストロマ州	ム*	オレンブルグ州	フ*	トヴェリ州	ナ*	カムチャッカ地方	ツ*
カルムイク共和国	ク	チェチェン共和国	ト	ブリヤンスク州	ミ	クルガン州	ハ*	オルロフ州	ナ*	トムスク州	ハ*	ザバイカル地方	ア*
カラチャイ・チェルケス共和国	ケ	チュヴァシ共和国	ナ	ウラジーミル州	ム	クルスク州	ナ*	ベンザ州	イ*	トゥーラ州	イ*		
カレリア共和国	コ	アルタイ地方	ナ*	ホルゴランド州	ナ*	レニングラード州	コ*	ブスコフ州	ナ*	チュメニ州	Y		
コミ共和国	サ	クラスノダール地方	ヌ	ヴォログダ州	ネ*	リベツク州	ナ*	ロストフ州	ミ*	ウリヤノフスク州	ハ*		
マリ・エル共和国	イ*	クラスノヤルスク地方	ネ	ボロネジ州	ミ*	マガン州	ツ*	リヤザン州	ム*	チェリヤピンスク州	a		

¹² 1 に近いほど相関性が、-1 に近いほど逆相関性が強い。

図表 9 因子負荷量のグラフ



主成分分析とは多数の指標（この場合は得票率など）をまとめて把握し、そこから特徴を捉えた少数の総合指標を導き出す手法です。例えば体力測定で得られた反復横跳び・垂直跳び・背筋力・握力・50m走・幅跳びといったデータを主成分分析にかけると、「筋力」と「敏捷性」という少数の総合指標を導くことができます。

図表 8 は主成分得点のグラフ、図表 9 は因子負荷量のグラフと呼びますが、この際呼び名は重要ではなく、いずれのグラフも Z1 という総合指標を横軸に、Z2 という総合指標を縦軸にした散布図であることを確認してください。軸を等しくする散布図ですから、図表 8・9 はそれぞれを見比べながら分析することに意味があります。

まず総合指標 Z1、Z2 が何か見当をつける必要があります。図表 9 を見ると、与党・統一ロシアだけが Z1 軸（横軸）のプラス側に、それ以外の野党は Z1 軸（横軸）のマイナス側にあることから、**Z1 とは「与党度」を示す総合指標**と考えてよいでしょう。統一ロシアの近くに位置する野党は無く、統一ロシアの孤立ぶりがうかがえます。個人的には年金生活者がもう少し統一ロシアの近くに位置するだろうと予想していたのですが、分析結果ではそうならず、年金生活者は共産党の近くに位置しています。この結果は「統一ロシアは年金生活者の多い地方で強い」との見方に疑問を抱かせます¹³。また名目 GDP（1 人当たり）と鉱業は Z1 軸（与党度）では中立的な位置にあり、豊かな連邦構成主体は（相対的に）政治的に中立であると考えられます。図表 8 を見ると、最も統一ロシア寄りなのがチェチェン共和国、最も野党寄りなのがスベルドロフスク州であることが分かります。

次に総合指標 Z2 軸は何か見当をつけましょう。図表 9 を見ると、Z2 軸のプラス側に名目 GDP（1 人当たり）や鉱業が、マイナス側に年金生活者や共産党が位置しています。このことから、**Z2 軸は「豊かさ」を示す総合指標**と考えてよいでしょう。あるいは政党の「右

¹³ チェチェン共和国など統一ロシアの得票率が高い北カフカス連邦管区の連邦構成主体は年金生活者の割合が低い傾向があります。このバイアスを除くため、同管区の連邦構成主体を除いて別途分析を行いました。結果は大きく変わりませんでした。

派度」を示す総合指標と考えるとよいかもしれません。この前提で図表 9 を見ると、明確ではありませんが、ロシアでは「自由民主党」「右派活動」「ロシアの愛国者」「ヤーブラカ」「統一ロシア」が右派政党、「公正ロシア」「共産党」が左派政党と考えられます。

全体を通じて言えることは、図表 8 において（チェチェン共和国など極端なケースを除いても）未だに多くの連邦構成主体が Z1 軸のプラス側、つまり与党側に位置しているということです。更に興味深いのは、図表 9 で 与党・統一ロシアと投票率（いずれも記号は「カ」）が重なっていることです。これは一般的な傾向（高い投票率＝野党に有利）とは逆で、非常に興味深い現象です。

3. こんな本を読みました：「ソ連史」（松戸清裕著、筑摩書房）

「失敗学」という言葉がありますが、人類の壮大な実験であったソ連史からも我々は大いに学べるはず、との思いから執筆されたのが本書です。私も共通した思いを抱いており（そのため本レポートでも歴史書を紹介することが多い）、わが意を得たりとの思いで本書に飛びついた次第です。

まず冒頭に、「批判されることが多いソ連でも、良い点はあった」旨の記述があり、大いに納得しました。物事の多くには良い面・悪い面があり、「ソ連にも良い部分はあった」というのは極めて良識的かつ中立的な見方だと思うのですが、日本を含む西側世界でこのような発言をすると「ソ連・ロシア寄り」と見られる傾向があります。そういう背景を考えれば著者の勇気に拍手を送りたい気持ちになりました（逆に一番楽なスタンスは「ソ連・ロシア＝悪」と決めつけ、世論に迎合することです）。

上記部分だけでも本書は十分価値があると思うのですが、私の知らなかった以下のような歴史的事実も紹介されており、非常に興味深く読むことができました。

- 1932年12月にソ連国民（除くコルホーズ員）に国内パスポートが支給された背景にスターリンの農業集団化政策失敗があったこと。尚、コルホーズ員にはその後1970年代にパスポート支給開始。
- ソ連の膨張主義が過去の戦争、特に第二次世界大戦で受けた恐怖に対する反動であること（第二次世界大戦ではソ連男子の1/5が死亡）
- ソ連各地に結婚宮殿と呼ばれる結婚式場が開設されたのは、政府が否定した教会婚を減らすため。尚、政府が宗教を敵視した背景には、労働生産性の低下や、宗教関連儀式での飲酒を通じた治安悪化を恐れたから。
- ソ連全体を通じて、アキレス腱となったのは農業だった
- 1950-60年代と比較し、1970-80年代のソ連人の生活は明らかに改善。それでも1970-80年代の生活水準はかつての期待を下回る水準だったことがその後の停滞につながった。
- ベトナム戦争やインド・パキスタン戦争への関与を見る限り、中国共産党よりもソ連共産党のほうが穏健であった
- スターリン後の指導者は国民に対し一定の配慮を示していた。これは政権に正統性（例えば革命や戦争を勝利に導いた実績）が無いことを指導者自身も分かっていたため。

- ゴルバチョフは当初経済改革のみを行うつもりだったが、その結果生じた国民意識の
変革に押され、政治改革に踏み切らざるを得なかった。

本書で得た知識を当てはめれば、中国でもいずれは民主化に動かざるを得ないように思われます。またゴルバチョフによるグラスノスチの役割を今日ではインターネットが果たしているように、政治改革においては情報（技術）が非常に大きな役割を演じることを再確認しました。加えて、いかなる国においても「政権の正統性」がどれほど大切か、ということを知りました。

以上

担当	シニア・アナリスト 榎本 裕洋	TEL 03 - 3282 - 7582 E-mail: Enomoto-Y@marubeni.com
住所	〒100-8088 東京都千代田区大手町 1 丁目 4 番 2 号 丸紅ビルディング 12 階 経済研究所	
WEB	http://www.marubeni.co.jp/research/index.html	

(注記)

・本稿に掲載されている情報および判断は、丸紅経済研究所により作成されたものです。丸紅経済研究所は、見解または情報の変更の際して、それを読者に通知する義務を負わないものとします。

・本稿は公開情報に基づいて作成されています。その情報の正確性あるいは完全性について何ら表明するものではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。